

氏名	内田 史江
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第5994号
学位授与の日付	平成31年 3月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	在宅療養がん患者のターミナル期における訪問看護支援に影響を及ぼす要因の検討
論文審査委員	教授 西田眞壽美 教授 白井喜代子 准教授 近藤真紀子

### 学位論文内容の要旨

目的：在宅療養がん患者のターミナル期の訪問看護支援に影響を及ぼす個人要因，環境要因との関連性を明らかにする。

方法：訪問看護師を対象に無記名自記式により，個人要因14項目，環境要因14項目，FATCOD-B-J3因子30項目，ターミナル期の訪問看護支援23項目の質問紙調査を実施した。因子分析により得点化したターミナル期の訪問看護支援（22項目， $\alpha = 0.96$ ）に影響を及ぼす要因のパスモデルを作成した。

結果：解析対象者は750名であった。ターミナル期の訪問看護支援には，FATCOD-B-Jを介して，「理念に基づいた行動」「組織運営に関する発言の機会」「在宅医との協力関係」「仕事への意欲」「訪問看護師経験年数」が影響を及ぼすモデル( $X^2=3.06, p=0.82, GFI=0.999, AGFI=0.994, RMSEA=0.000$ )が示された。

結論：在宅療養がん患者のターミナル期の訪問看護支援を促進するには，組織理念に基づき，チーム力を高め，組織にコミットメントできるように取り組む必要性が示唆された。

## 論文審査結果の要旨

本論文は、訪問看護ステーションの看護師706名を分析対象とする質問紙調査により、在宅療養がん患者のターミナル期の訪問看護支援に影響を及ぼす個人要因、環境要因との関連性を明らかにした。我が国は世界に類をみない多死社会の到来とともに在宅医療を必要とする人が増加することが見込まれ、訪問看護支援のニーズが高まっている現代において、本研究の目的は時宜にかなない社会的意義が大きいと考えられる。ターミナル期のがん患者に対する訪問看護の実践内容を測定する尺度を作成し3因子構造モデルを提示した。このモデルを用いて共分散構造分析を行い、訪問看護活動の実行度と影響要因を検討したことは独創性のある研究として評価できる。その結果、ターミナル期の訪問看護支援を促進するには、組織理念に基づき、チーム力を高め、組織にコミットメントできるように取り組む必要性があることが示唆された。本研究は有効回答率が高いとは言えずサンプルの偏りが考えられること、作成した尺度の妥当性・信頼性を検証することが求められ、方法上の限界と課題は残されている。しかし、社会的ニーズの高い訪問看護支援活動を支える訪問看護師のターミナルケアへの態度や認識に着目した分析は、今後の訪問看護の質を検証するモデルとして有効性と将来性が認められる。

以上により、本研究は学位論文として基礎的な成果を含む研究と評価し、博士（看護学）として学力および知識を有するものと認め、最終試験を合格と判定した。